

お遊戯会が近づいてきました。

この一週間は、各学年同士でダンスの披露(見せあい)をしています。見た後に感想を聞くと「そろっていてカッコよかったです」等と伝え、言われた方もその感想に満足そうな顔をしています。年中、年長になると、自分たちのダンスを客観的に見る(考える)こともできるようです。「もうちょっと手は上だよ(上に挙げるとみんなが揃う)」などの友達からの助言を受け入れて、自分の動きを直すことができます。大人でも難しい「人の意見を受け入れる」姿に、頭が下がります。お子様は自分のダンスが大好きです！どうぞごゆっくりご覧ください。



言葉と仲間



園では、春、秋に保育者養成校から教育実習生を数名ずつ受け入れています。学年を変えて1週間ずつ2クラスに入り、お子様の成長、保育者の子どもとの関わり方について学びます。実習生はお子様の成長をさまざまな角度から見つめています。

- ・年中では、自分の言葉で伝えられなくなると、けんかになってしまうが、年長になると、自分の思い通りにならないことや、自分が悪いと謝ることができるようになり、あまり喧嘩にならないようだ。
- ・年長は、友達といろいろなことを話しながら、遊びがどんどん変化(展開)していくことがとても興味深かった。
- ・学年によりわかる言葉は違うので、保育者は、言葉を選んだり、早さを違えていた。自分でやってみるととても難しかった。(実習生の感想です)

「友達同士の関わり」において、学年が進むにつれ、「言葉・会話」による理解が遊びに大きく関係していることがよく観察されています。

乳幼児の言葉の習得は、体験、経験が不可分にある(「おいしい」という言葉はおいしいものを食べることで覚える)と言われます。1,2歳児の1語・2語文から、生活経験の中で単語が増え、少しずつ文章を話すようになります。最初は「親が意味を補完し通用する会話」であったものが、(親を介さず)友だち同士で通用する会話に成長するまでには、意思の疎通による喧嘩や悔しい思いを「保育者が意味を補完しながらつながり合う経験」をたくさん積んでいます。乳幼児期・学童期は経験による言葉の習得の真っ最中と言えます。



年中さんがバルーンを体験！広い！



大きな大きなボールを持ちあげたよ



年長さんがランチをごちそうしてくれたの